

登録コード	E2444900	開講年度	2026				
授業科目	日本音楽史					担当教員	桐原 礼
英文授業名	Music History in Japan (Traditional and Ethnomusicological)					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限	対象学生	
講義室	教育N 4 0 4		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 6 E カリ, 2 5 E カリ, 2 4 E カリ, 2 3 E カリ, 2 2 E カリ, 2 1 E カリ, 2 0 E カリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				日本音楽史の各種目および郷土の音楽に関する基礎的な理論について理解することができる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				日本音楽史に関する知識および基礎的な技能を習得することができる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	日本音楽史の流れにおいて、各時代の重要な種目を取り上げる。また、郷土の音楽や民謡なども扱う。視聴覚教材を多く用いた講義形式を主とし、演習の形式も取り入れながら授業をすすめる。						
(5)授業計画	第 1 回：ガイダンス、日本音楽とは 第 2 回：日本音楽の基礎理論 第 3 回：伝統的な音楽の学習過程 第 4 回：課題探求の方法：フィールド・ワークについて 第 5 回：郷土の音楽・日本の民謡 第 6 回：雅楽・声明 第 7 回：能と狂言 第 8 回：琵琶楽・尺八楽 第 9 回：浄瑠璃・歌舞伎音楽 第10回：和楽器演奏の鑑賞活動 第11回：和楽器を用いた創作活動 第12回：課題探求 信州の伝承音楽 第13回：課題探求 日本各地の祭り 第14回：日本音楽のこれから、授業アンケート 教育実習で欠席した学生がいる場合は、個別に課題を提示し、提出を求める。						
(6)成績評価の方法	第 1 回から第11回の知識に関するミニレポートが50%（ ），第12回から第13回の個人発表が40%（ ），授業の参加状況を10%（ ）とし評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	（ 4 ）の の知識および の表現力に関する評価が極めて高くか が極めて高い評価だった場合は「卓越している」、 の知識および の表現力に関する評価が高くか が高い評価であった場合は「かなり上にある」、 の知識および の表現力に関する評価が一定水準以上かつ の評価が標準的であった場合は「やや上にある、 の知識および の表現力に関する評価が水準にありかつ について標準的であった場合には「標準にある」と評価する。						
(8)事前事後学習の内容	プレゼン課題を事前に準備する必要がある。またレポートを課すため、毎回の授業内容について復習しておく必要がある。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。						
(9)履修上の注意	レポートにて一定水準以上の点数を獲得できない場合は単位不可となる可能性があるため、内容をよく理解しておく必要がある。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	研究室（N411）にて随時。 メールアドレス：kiriaya@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	令和7年度 中学生の音楽（教育芸術社）						
【参考文献】	田中健次『図解日本音楽史（増補改訂版）』（東京堂出版）2018年． 月溪恒子『日本音楽との出会い -日本音楽の歴史と理論-』（東京堂出版）2010年． その他、必要に応じてその都度レジュメの資料を配布する。						